

第 654 回

日本小児科学会東京都地方会講話会

プロ グ ラ ム

日 時 2019年 5月11日(土) 午後 2時 00分

場 所 東京医科大学病院本館 6階臨床講堂

東京医科大学病院 本館6階 臨床講堂

- ・JR「新宿駅」西口から徒歩10分
- ・地下鉄大江戸線「都庁前駅」から徒歩7分
- ・地下鉄丸ノ内線「西新宿駅」出口E5、2からすぐ



世話人

プログラム係 石毛 美夏
日本大学小児科 03(3293)1711

(FAX) 03(3292)2880

会場係 熊田 篤
東京医科大学小児科 03(3342)6111

(FAX) 03(3344)0643

事務局 03(5388)7007

e-mail: jpstokyo-office@umin.ac.jp

次回以降開催予定日

2019年 6月 8日(土) 東京医科大学病院本館 6階臨床講堂

2019年 7月13日(土) 東京医科大学新病院 9階講堂

2019年 9月14日(土) 東京医科大学新病院 9階講堂

第 654 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内、厳守のこと。○印演者)

第 1 グループ 14:00—14:30

座長 日根 幸太郎 (東邦大学医療センター大森病院新生児科)

1) エコーで膿瘍化を疑い、穿刺ドレナージに至った感染性頭血腫の 1 例

○真野 純子¹⁾、林 健一郎¹⁾、足立 夏帆¹⁾、五十嵐瑞穂¹⁾、森口 駿¹⁾、西木 拓己¹⁾、
大橋 瑛梨¹⁾、高橋 千恵¹⁾、梶保 祐子¹⁾、神田祥一郎¹⁾、松井 彦郎¹⁾、岡 明¹⁾
花 大洵²⁾、國井 尚人²⁾、北浦 慧³⁾、保科 宙生⁴⁾ (東京大学小児科)¹⁾、
(同 脳神経外科)²⁾、(同 感染症内科)³⁾、(総合母子保健センター愛育病院)⁴⁾

吸引分娩による頭血腫を認めていた男児。日齢 9 日に大腸菌菌血症を発症し、日齢 26 日に頭血腫部位の炎症所見を認めた。エコーで膿瘍化を疑い、穿刺ドレナージを施行した。創部から大腸菌が検出され、6 週間の抗菌薬投与を行った。膿瘍化した感染性頭血腫ではドレナージが重要であり、今回その判断にエコー所見が有用であったことを報告する。

2) 胎児期に静脈管欠損症を指摘された先天性肝外門脈体循環短絡症の 1 例

○本多 愛子¹⁾、和田 友香¹⁾、岩崎 由佳¹⁾、甘利昭一郎¹⁾、塚本 桂子¹⁾、伊藤 裕司¹⁾、
諫山 哲哉¹⁾、阪本 靖介²⁾、野坂 俊介³⁾
(国立成育医療研究センター新生児科)¹⁾、(同 移植外科)²⁾、(同 放射線科)³⁾

在胎 38 週、2,960 g で出生した女児。胎児期に静脈管欠損症を指摘されたが出生後に先天性肝外門脈体循環短絡症と診断した。無症状であったが日齢 13 日にエコーにて門脈内血栓を認めたため抗凝固療法を開始し、4 kg を目安にシャント塞栓術を施行する方針とした。胎児期の静脈管欠損症の指摘から診断に至った稀な症例であり報告する。

3) NICU 退院時に経管栄養を必要とする児の臨床的特徴について

○前田 朋子、菅波 佑介、渡邊 由祐、西袋麻里亞、西端みどり、奈良昇乃助、
春原 大介、河島 尚志 (東京医科大学小児科)

NICU 退院時に経管栄養を必要とする児の臨床的特徴や経管栄養離脱に関わる因子について、診療録を用いて後方視的に検討を行った。2015 年 1 月～2017 年 12 月に入院した児のうち、退院時に経管栄養を併用したのは 10 例、基礎疾患の内訳は診断未確定の多発奇形が最多だった。全例が咽頭・喉頭軟化症を合併しており、哺乳障害のリスク因子となることが示唆された。

第 2 グループ 14:30—14:50

座長 藤村 純也 (順天堂大学小児科)

4) Bacterial translocation による敗血症性脳症が疑われた女児例

○一和多信孝¹⁾、桃木恵美子¹⁾、松田 健剛¹⁾、石井 一裕¹⁾、権高 恩¹⁾、川口 忠恭¹⁾、
窪田 園子¹⁾、石井和嘉子¹⁾、福田あゆみ¹⁾、渕上 達夫¹⁾、藤田 之彦¹⁾、森岡 一朗¹⁾、
高木 正稔²⁾、金兼 弘和²⁾ (日本大学板橋病院小児科)¹⁾、(東京医科歯科大学小児科)²⁾

10 か月の女児。麻痺性イレウスで入院した。入院 6 日目に発熱を伴うけいれん重積と意識障害を認めた。血液培養で *Enterobacter cloacae* が検出され、敗血症性脳症と診断した。乳児一過性低 γ グロブリン血症を背景とした、Bacterial translocation による病態が推察された。文献的考察を加え報告する。

5) 体重増加不良を初発症状とした肝芽腫の乳児例

○高橋 哲朗、伊藤 淳平、井上 恭兵、嶋 晴子、嶋田 博之、高橋 孝雄

(慶應義塾大学小児科)

10か月健診で体重増加不良（4か月時6kgから0.6kg増）を指摘され、離乳食について栄養指導を受けた。その後2週間程度の経過で活気が低下し、近医で腹部腫瘍を指摘され、当院で肝芽腫と診断した。腫瘍切除後から離乳食が進み、体重も順調に增加了。乳幼児で体重増加不良を認めた場合は、小児がんを鑑別に考え腹部診察を慎重に行う必要がある。

休憩 14:50—15:00

感染症だより 15:00—15:20（講演：15分＋質疑応答：5分）

座長 斎藤 義弘（東京慈恵会医科大学葛飾医療センター小児科）

神谷 元（国立感染症研究所感染症疫学センター）

教育講演（Ⅲ 小児科領域講習） 15:20—16:20（講演：50分＋質疑応答：10分）

座長 清水 博史（しみず医院）

早産児のための新しい黄疸管理～なぜ、今再び黄疸が注目されているのか～

森岡 一朗（日本大学小児科）

21世紀に入り我が国の超早産児の救命率が急速に向上した。我々が救命する超早産児の中に、残念ながら神経発達障害をもつ児が少なからず存在する。近年、早産児の慢性ビリルビン脳症（核黄疸）が臨床診断できるようになり、その障害の要因の一つとして、ビリルビンによる脳障害が注目されている。本講演では、なぜ、今再び黄疸が注目されているのかを検証し、慢性ビリルビン脳症を発症させないための早産児の黄疸管理法およびその将来展望について述べる。

休憩 16:20—16:25

第3グループ 16:25—16:55

座長 阿部 百合子（日本大学板橋病院小児科）

6) 川崎病後に関節炎を呈し全身型特発性関節炎との鑑別に苦慮した1例

○近藤 純香、福原 大介、木内善太郎、楊 國昌

（杏林大学小児科）

3歳の女児。川崎病の診断でIVIG療法を2回施行し、寛解後より下肢の関節痛が出現した。MMP-3 963ng/mLの高値と、造影MRI・関節超音波から関節炎と診断した。全身型特発性関節炎が鑑別となるが、炎症マーカーや血清フェリチン値から、川崎病に合併した関節炎と診断した。経過から鑑別が難しく、文献的考察を加え報告する。

7) 救急外来を walk in で受診し小児期に発症した冠攣縮性狭心症の1例

○下山 輝義¹⁾、野村 知弘¹⁾、長島 彩子¹⁾、山口 洋平¹⁾、前田 佳真¹⁾、石井 卓¹⁾、細川 稔¹⁾、米津 太志²⁾、土井庄三郎¹⁾、森尾 友宏¹⁾

(東京医科歯科大学小児科)¹⁾、(同 循環器内科)²⁾

生来健康な10歳男児。早朝就寝中に突然の前胸部痛を自覚し前医救急外来を受診した。12誘導心電図でST上昇、血液検査で心筋逸脱酵素の上昇を認め、当院に紹介入院した。アセチルコリン負荷試験下での冠動脈造影では冠動脈3枝のびまん性狭窄所見を認めた。冠攣縮性狭心症の小児期発症は極めて稀であり文献的な考察を踏まえ報告する。

8) 父親の狭心症を契機に家族性高コレステロール血症と診断された1歳男児

○永閑ひかる、秋山 政晴、宮田 市郎、井田 博幸 (東京慈恵会医科大学小児科)

父親が狭心症精査で受診した際に、家族歴から家族性高コレステロール血症が疑われた。当科で男児の高脂血症を認め、遺伝学的検査では父子ともにLDL受容体exon 8-10の重複ヘテロ変異を認めた。コレステラミン治療により児のLDL-C値は改善した。動脈硬化予防には日常診療での家族歴聴取と本症を積極的に疑うことが大切である。

第4グループ 16:55—17:20

座長 大森 多恵 (都立墨東病院小児科)

9) トスフロキサシンで尿中薬物結晶をきたした3例

○中山 暖日、渥美ゆかり、大田 倫美、吉本 優里、大熊 喜彰、田中 瑞恵、山中 純子、瓜生 英子、水上 愛弓、佐藤 典子、五石 圭司、七野 浩之

(国立国際医療研究センター小児科)

トスフロキサシンで尿中薬物結晶をきたした3例を経験した。3例とも脱水・尿量低下を認め、2例では腎機能障害を合併したが、補液で症状と腎機能の改善を認めた。ニューキノロン系抗菌薬は結晶析出による尿細管閉塞および腎機能障害をきたすことがある。尿量低下が結晶化を引き起こす可能性もあり、経口摂取不良時の使用には注意が必要である。

指定発言 木下 典子 (国立国際医療研究センター感染症科)

10) 施設間搬送の推移からみる小児専門病院の現状

○大西 志麻、植松 悟子、辻 聰 (国立成育医療研究センター救急診療科)

当科は、疾患・病態によらず、緊急の患者紹介や治療の相談に24時間対応している。また施設間搬送では必要に応じ医師を派遣し迎え搬送を行っている。転院例の約9割が東京都内と隣接県からであり、小児専門病院としての機能に加えて、地域の中核病院としての役割を担っている。施設間搬送からみた当院の取り組みについて報告する。

【運営委員会だより】

1. 第654回講話会（2019年5月11日）プログラム編成について報告がありました。
2. 2019年度感染症だよりは講師を多屋先生、砂川先生、神谷先生、森野先生に担当頂き、座長は岩田先生、和田先生と齋藤先生で進めることで了承されました。
3. 来年度の教育講演について、座長は全て決まったことを確認し、了承されました。
4. こどもの健康週間に關して、執筆担当校を東京女子医科大学、日本大学板橋病院、東京大学に依頼することを確認し、了承されました。
5. 東京都地方会で作成する「緊急時を念頭にしたメーリングリスト」について、これまで681名（全会員の約31%）の登録があったことが報告されました。
6. 第653回講話会（3月）の出席者は257名、ベビーシッタールーム利用者は8名、前回講話会以降の新入会者は9名、退会者は13名でした。

【演題の申し込みについてのお願い】

- ・動画が含まれる場合には、その旨を明示して下さい。
- ・原則として指定発言をつけて下さい。（共同演者から指定発言は頂けません）
- ・演題の締切は次のようにになります。
- ・運営委員会にて抄録の修正をさせて頂く事もございますので、原則としてご了承下さい。

講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切
1月	前年11月30日	2月	前年12月25日	3月	1月31日
5月	2月28日	6月	4月22日	7月	5月31日
9月	6月30日	10月	8月31日	12月	9月30日

申込演題が規定数を上回った場合、さらに1回先になることがありますのでご了承下さい。

その場合、事務局よりご連絡します。

【演者の先生方へのお願い】

- ・一次抄録は160字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の200字以内を厳守くださいようお願い致します。（原稿はワード入力でe-mailにて事務局へお送り下さい。）
- ・出席した会員に発表の意味をより強く、明確に伝えるために、最後（または適切な時期）にTake Home Message（この発表から学ぶこと）を手短な一文で記したスライドを付け加えていただくようお願い致します。

【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- ・自宅、勤務先の住所（プログラム送付先）等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。
- ・退会される場合も必ずご連絡下さい。そのお届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。

東京都地方会事務局 e-mail : jpstkyo-office@umin.ac.jp / FAX : 03 (5388) 5193

【事務局よりご連絡】

- ・今回の教育講演には日本小児科学会専門医新制度における小児科領域講習の単位が付与されています。受付開始から教育講演開始まで引換券を配布しますので、教育講演終了後から講話会終了までの間に引換券と単位認定証とを交換して下さい。
なお、引換券は当日限り有効です。
また教育講演開始後に入场、及び終了前に退出された方には小児科領域講習単位はお渡できません。
- ・こどもの健康週間パンフレットは2016年版と2017年版も在庫がございます。ご希望の先生は事務局までご連絡下さい。なお在庫の関係でご希望部数をお送り出来ない場合がございますことをご了承下さい。

Presentationについて

発表は Computer Presentation (Windowsのみ可、Macは不可) のみで受け付けます。MacのPC持ち込みによる発表はご遠慮下さい。Powerpoint 2000以上で作成、Font文字はPowerpoint備え付けのみ。CD-RもしくはUSBメモリーにて、第1、2グループ発表者は午後1時30分までに、第3グループ以降の発表者は午後3時までにスライド受付まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルスcheckをお願い致します。

動画について

動画の発表にはトラブルが多いため、下記の方針をご理解いただきますようお願い致します。

- ① 一般演題での動画の使用はできる限りお控えいただくようにお願い致します。
- ② 動画の使用が不可避と考えられる場合、ファイルのセーブ法などの注意事項がありますので、学会事務局に必ず事前にご連絡下さい。
- ③ ②の場合にも、動画の映写にトラブルがあったときに備え、静止画像のみで構成された代替パワーポイントファイルをご用意下さい。当日、動画の映写が不可能と判断された場合には、代替パワーポイントファイルを用いて、時間通りに学会を進行させていただきますことをご了承下さい。

〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設します。利用ご希望の方は、利用日の**10日前**までに問診票をダウンロードし、必要事項を記載の上、事務局へe-mailまたはFAXでお申し込み下さい。問診票は東京都地方会ホームページにございます。利用当日、お子様が好きな食べもの・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。キャンセルされる場合は、3日前までにご連絡をお願い致します。連絡のないキャンセルの場合は、次回以降の利用をご遠慮頂く場合がございます。なお費用は学会が負担致します。

日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007/FAX 03-5388-5193
e-mail : jpstokyo-office@umin.ac.jp

症例・研究を発表してみませんか

— 小児科専門医を目指す方へ —

ご投稿をお待ちしております

小児科臨床では、投稿いただきました論文には必ず査読がります。投稿規定の詳細は弊社ホームページをご覧ください。



編集委員

今井孝成・浦島崇・小林正久・鈴木光幸・
田中恭子・長谷川大輔・張田豊・堀越裕歩

普通号（年10回） 2,700円 + 税

特集号（年2回） 増刊号（年1回）

年間購読料（前納） 43,000円 + 税

(第72巻)

4号 特集

知っておきたい小児の栄養

(第71巻)

12号 特集

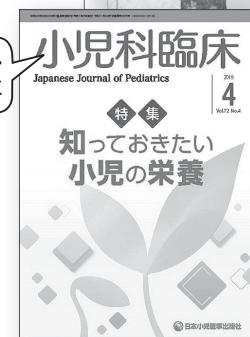
A4サイズ・
全面2色に
抗菌薬の適正使用と
院内感染対策について考える

増刊号

よくある疾患の診かた
—他科からの助言—

5号 特集

私の処方 2018



日本小児医事出版社



株式会社 日本小児医事出版社

〒160-8306 東京都新宿区西新宿5-25-11 TEL 03-5388-5195 FAX 03-5388-5193